

[成果情報名] 小輪、黄花、一重咲きの切り花用マーガレット新品種「伊豆 30 号」

[要約] 交雑育種法により、小輪、黄花、一重咲きの切り花用新品種「伊豆 30 号」を育成した。本品種は、着蕾数が多く、開花時の草姿が良く、現地の適応性も高いことから、切り花用品種として有望である。

[キーワード] 切り花、マーガレット、新品種、伊豆 30 号

[担当] 静岡農林研・伊豆農業研究センター

[連絡先] 電話 0557-95-2341、電子メール agriminamiizu@pref.shizuoka.lg.jp

[区分] 関東東海北陸農業・花き

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

マーガレットは、静岡県南伊豆地域の特産花きとして昭和初期から栽培されている。近年の温暖化傾向で、夏秋期の気温が高く、花芽分化の抑制等により年内の開花が不安定になっている。このため、年内から安定して開花し、生産性の高い切り花用の新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1 . 育成経過：平成 18 年度に静岡県農業試験場南伊豆分場（現伊豆農業研究センター南伊豆圃場、賀茂郡南伊豆町）において、育成系統「04-26-2」の自然実生を播種して得られた 312 個体から 4 個体を選抜して、「06-8-1」～「06-8-4」の系統名を付与した。平成 19 年度に二次選抜、平成 20 年度に三次選抜及び現地適応性試験、平成 21 年度に現地適応性試験を行い、有望性が確認できたことから、育成系統候補「伊豆 30 号」として、平成 21 年 12 月に育成を完了した。

2 . 生育特性：「伊豆 30 号」は、小輪タイプの一重咲きの黄花で、「プリンセスレモネード」より同時期から開花する。開花時の草姿が良いため切り花用に向く。

3 . 現地適応性：「伊豆 30 号」は、現地での開花開始は 11 月で、草姿・花型が良く、「プリンセスレモネード」より着蕾数が多いことが評価された。

[成果の活用面・留意点]

1 . 種苗法による品種登録を出願予定であり、栽培にあたっては静岡県との許諾契約が必要である。

[具体的データ]

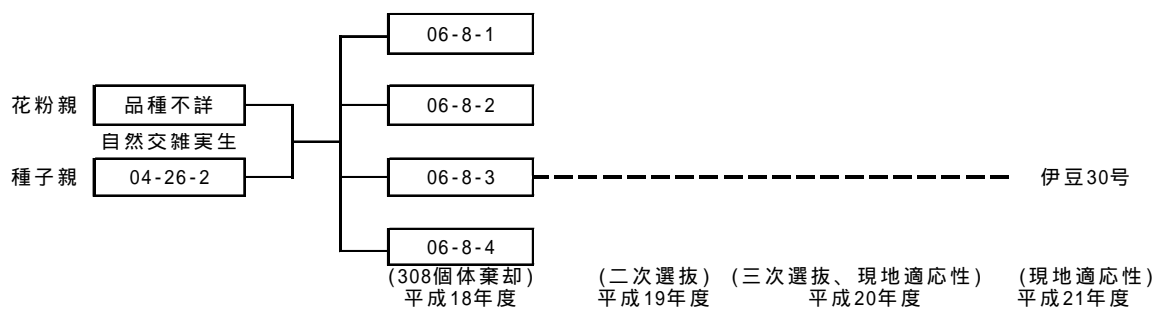


図1 「伊豆30号」の育成系統図

表1 「伊豆30号」の生育開花特性（平成19年度）^z

系統名	草型	草丈	葉の形質						開花		花 色		年内本数	x	w		
			葉型	葉片幅	葉の欠刻	鋸歯の粗密	葉長	葉片幅	葉色 ^y	開始	花径	花型				舌状花	管状花
伊豆30号	立	高	型	中	深	中	長	中	緑	9月下	小	一重	淡黄	黄	5.5	5.5	A
在来黄 ^b	立	高	型	広	中	粗	中	広	淡緑	1月以降	中	一重	黄	黄	-	-	-
プリンセスレモネード ^v	丸	高	型	狭	中	粗	短	狭	淡緑	9月上	小	一重	淡黄	黄	5.3	5.3	-

^z 生育特性は種苗分類調査報告書（マーガレット）による栽培期間中の観察調査
^y 葉色は「在来白」（緑）を基準とした場合の濃淡等による観察調査
^x 採花時点で出荷基準を満たしていると考えられるものの本数（切花長40cm以上）
^w 選抜基準、A：切花用、B：鉢物（花壇）用、C：交配素材、x：棄却
^v 対照品種

表2 「伊豆30号」の現地における生育特性（平成21年度）^z

系統名	花色	花型	花径	草丈	開花開始 ^y	現地生産者 ^x の観察状況	評価 ^w
伊豆30号	黄	一重	小	長	11月中	着蕾数多い・草丈高い(A、B、C、D、E、F)、草姿は「プリンセスレモネード」より良い(A、C、F)	-
在来白	白	一重	中	中	11月	対照品種	-
サザンエレガンス ホワイト	白	一重	中	長	10月下	対照品種	-
プリンセスリトル ホワイト	白	二重	小	中	10月上	対照品種	-

^z 花径、草丈等の特性は「在来白」を基準に記載（特性調査基準に準拠）
^y 6月下旬定植の作型における開花時期
^x 東伊豆町（A）、河津町（B）、南伊豆町（C、D、E）、西伊豆町（F）
^w 評価、x：適さない、：やや適する、：有望



開花状況



草 姿

図2 「伊豆30号」の現地における生育・開花状況（南伊豆町伊浜）

[その他]

研究課題名：マーガレット新品種の育成と生育特性の解明

予算区分：県単

研究期間：2007年～2011年

研究担当者：稲葉善太郎